



生徒一人ひとりの ～デネブ高等学校での進路指導

デネブ高等学校
教諭 岩見 信也

進路保障をめざして の取り組みについて～

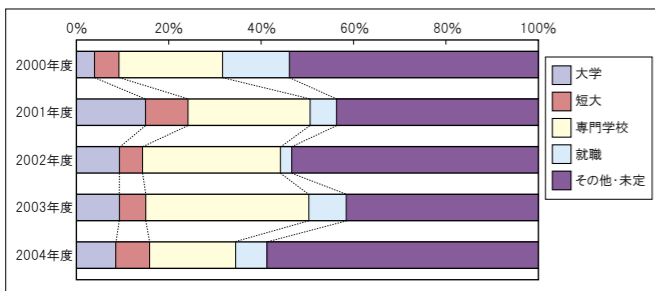
はじめに

私が本校に就任したのは3年前。大学進学指導の経験が長く、その経験を活かして指導に臨みました。しかし通信制の生徒は幅広い年齢層で、有職者も多く、様々な事情を抱え、様々な意識も持っています。こうした生徒たちに、同じ目的で画一的な進路指導を行うことは困難でした。生徒一人ひとりにあわせた指導が必要であり、進路のみならず、様々な相談にも耳を傾ける必要があることをつくづく感じました。

毎年100人近くの生徒の進路相談に応じ、その希望を実現できるようにいろいろと思索している日々ですが、今回は、本校の進路指導の現状と課題を確認するために、この3年間の取り組みを振り返ってみたいと思います。

本校の進路指導の現状と課題

次のグラフは、卒業生の進路状況の推移を示したものです。年度による違いはありますが、半分近くの生徒が「その他・未定」となっています。全日制ではとても考えられない状況ですが、本校生徒の大部分が「卒業すること」を第1目標としており、卒業後の目的を明確にもっている生徒は少数である



ということを見ると、これは通信制の宿命ともいえます。また、直前まで卒業のメドが立たない場合も多く、いざ進路を考え始めたときには、時期すでに遅しという生徒も少なからず存在します。

いずれにしても、この現状をいかに改善していくのが、大きな課題のひとつといえるわけです。

進路をどのように意識させるのか

早くから進路のことを意識させ、進路指導室をもっと活用してもらうために、進路情報の提供とともに、進路指導室の存在をアピールしていくことを考えました。そこでまず始めたことが「進路だより」の発行です。年に4～5回程度の発行となりましたが、進路関係の行事や模擬試験等のお知らせのほか、進学や就職についての基礎知識を特集として取り上げ、進路相談に訪れない生徒に対しても、こちらが知ってほしいと思うことを伝えられるように努めました。

2年目には「進路説明会」を実施しました。7月下旬、進学に向けた傾向と対策を中心とした説明を行いました。配付資料として進路情報をまとめた

冊子も作成し、情報の提供に努めました。説明だけでなく、進学した卒業生をゲストに迎え、受験のこと、学校のこと、将来のことなどを話して

もらうパネルディスカッションも同時に行いました。参加者は60人ほどでしたが、とくに卒業生のナマの声は、進路を考える上での端緒となりました。

今年度からは「総合学習」の中でも進路学習に取り組んでいます。必修科目なので、すべての生徒に進路を考えさせる機会を設けるには最適であると考え企画したものです。簡単な進路適性検査を行い、結果を分析しながら、自分が向いている職業や学問分野が何であるのかを知り、どのような進路に進めばいいのかを考える材料としました。また進学と就職の違いや、正社員とフリーターの違いが、将来どんな影響を及ぼすのか、といったことも考えさせるように指導しました。



進学希望者をどうするのか

本校には大学・短大に進学する生徒が毎年10～15%ほど存在します。ここ3年は、広島工大をはじめ、広島経大、広島国際学院大、比治山大など、県内の学校に毎年合格者が出ています。これまでの実績により、県内6つの大学・短大から指定校枠もいただいています。合格者の約8割は推薦によるものですが、昨年度は広島工大や広島修道大に一般入試で合格する生徒も出ました。

大学・短大への進学実績

年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005
広島大学			1			
山口大学			1			
広島工業大学		1		1	2	2
エリザベト音楽大学			1		1	
呉大学		1		1		
広島女学院大学				1		
広島経済大学	1	2	1	2	2	1
広島国際学院大学		1	1	1		2
広島国際大学			2	2		
広島修道大学			1		3	
広島文教女子大学			1			1
比治山大学					2	1
県外の大学	2	8	7	8	9	2
福山市立女子短期大学			1			
呉大学短期大学部			1			
山陽女子短期大学		2	2	1		3
鈴峯女子短期大学		1	1	2	2	
比治山大学短期大学部						4
広島国際学院大学 自動車短期大学部	1	2	1	1	1	2
広島文化短期大学		1	1	1		
県外の短期大学	2	2		4	5	1

※現役のみ、2005年度は12月現在(推薦合格者のみ)

これは、受験指導をどのようにすればいいのかという課題にこれまで取り組んできた成果であるともいえます。

その取り組みとして、まず2003年度より「校内模試」を実施しました。従来は公開会場で模試を受験していたのですが、より受験しやすくする意味で、土曜日に本校で受験できる形にしました。進研模試と代ゼミ模試を高3相当生に年6回、高2相当生に年3回行い、希望者のみで毎回10名程度が受験しています。受験生としての意識を高めること、学力を把握し進学指導に生かせることなど大きな意義がありました。

しかし、受験指導強化の必要性を感じさせる結果であったことはいうまでもありません。以前は「受験勉強をどうすればいいの?」という生徒の相談に対し、教科担当に個別指導を依頼したり、場合によっては塾に行くことをすすめたりという対応に留まって

いました。しかし、個別指導ではうまく時間が合わなかったり、長く継続した指導ができなかったりという問題点が見られ、全日制の生徒を相手にした塾の画一的な指導にはついていけないという問題点も見られました。そこでスクーリングの形で進学対策の時間をつくれなどうかを検討していった結果、今年度から「進学対策講座」という形で実現することができました。

各教科週1回、前期・後期に10回ずつ実施し、必要に応じて補習も行いました。受講者は英・国・地歴中心で1～5人程度と少人数ではありましたが、学力差が大きく、教科によっては中学の復習が必要な生徒もいるという状況でした。また、前期と後期の間が2か月近く空いたことで、継続した指導が難しかったことや、受験の重圧から進路を変更してしまう生徒が続出したことなどの問題点も出てきました。

今後に向けて

進路に対する意識をどう啓発するのか? 進学希望者にどう対応するのか? これらを中心にこの3年間取り組んできたわけですが、その中で様々な問題が浮き彫りになり、これを早急に改善していくことが必要となってきました。

また、進学だけでなく、就職を希望する生徒も当然存在します。本校に対

する企業からの求人はほとんどなく、ハローワークからの情報に頼らざるを得ない中で、学校を通して就職できる生徒はごく少数です。さらに、通信制に対する企業の理解度は低く、希望しても試験までこぎつけないケースもあります。生徒自身もアルバイト感覚で就職をとらえ、真剣に考えていない場合が多いのも現状です。今後は就職希望者にどう対応するのかという課題に取り組まなければなりません。

本校での取り組みは、全日制の先生方から見ると当たり前なことなのだと思いますが、それをなかなか体系化できないところに、通信制の進路指導の難しさがあると思います。その意味で、できることから少しずつ取り組んできた3年間ともいえます。

今後も生徒一人ひとりにあわせた進路指導を行いながら、指導の体系化を目指したいと考えています。

